

MCap v1.0 追加説明

2015.11.10

2007 年に公開した MCap ですが、その後しばらくほったらかしになっていました。
2015 年 11 月にダイナミクス全国大会（京都）に参加した折、二名の方から MCap に関するご質問とご要望をいただきました。
まだ使ってくれている方がいたことを知り、8 年ぶりに手を入れる気になりました。

京都で教えて頂いた問題点は、RS_Base 用の検査名を指定する部分のバグでした。これを修正し、その他いくつか手を入れてようやく
使用に耐えるプログラムになったと思い、バージョンを 1.0 として公開し直すことにしました。

【修正点】

1. RS_Base に対応して検査名を指定する部分にバグがあり正しく保存されなかった。これを修正。
2. 設定を保存するファイル(mcap.ini)を実行ファイルと同じディレクトリに置くように修正。
3. 動画キャプチャー時のフレームレートが小さく記録した動画がスローモーションになってしまう問題を修正。

8 年の間に入手しやすいビデオキャプチャーデバイスが変わり、また PC の OS やインターフェースも変化しました。
これに従ってマニュアルやヘルプファイルも修正すべきですが、面倒ではかどりません。

ひとまずポイントだけ本文書で追加・修正してプログラムを公開することにします。

【動作環境】

Microsoft Windows（おそらく 2000 以降の 7, 8, 10 などすべてのバージョン）、32bit および 64bit 版。

C および D ドライブがあること。

【ビデオキャプチャーデバイスについて】

2007 年の時点では DV 入力の ADVC-55（グラスバレー社製、当時はカノーブス社製）を推奨していましたが、

DV(IEEE1394, FireWire)接続を推奨していたが、すでにレガシーインターフェースになりつつあるため v1.0 以降は非推奨としました。

現在は

DFG/USB2Pro

http://www.argocorp.com/grabber/analog/TIS/DFGUSB2pro_aud.html

（株）アルゴ 扱い

¥35,000（2015 年 11 月現在）

をおすすめします（というよりも他に適当な製品が見あたらない）。

【ビデオコーデックについて】

静止画のみをお使いで動画を保存する必要がない方は読み飛ばしていただいて結構です。

動画もキャプチャーしたい方には、適切なビデオコーデックの使用すべきです。

ビデオ画像はとかくファイル容量が大きくなりがちです。それを圧縮（&復元）するのがコーデック。

多くの種類のものがあるが、DivX は圧縮率が高い割に画像がきれいで作者は愛用していました。

だがしかし！

困ったことに DivX にコーデックをバンドルするのをやめてしまいました(2014 年 4 月)。

<http://blog.divx.com/2014/04/23/codec-pack/>

もっとも上記リンクの最後に、

****Edit: August 18, 2014****

For those of you who would like to use the legacy DivX Codec Pack to convert and play DivX MPEG-4 videos in third-party programs, you can download it [here](#).

この "here" から DL 可。ただし、ダウンロード先について警告が出てきます。

以前より DivX を使っていた方はそれをそのまま使用するのがよろしいです。

代わりに使えそうなのは Xvid、ffdshow でしょうか(使用経験が少なくよくわからない)。

Xvid

<http://www.gigafree.net/media/codec/xvid.html>

ffdshow

<http://freesoft-100.com/pasokon/ffdshow.html>

参考までに、10 秒間の動画記録をしてみると、

コーデックなし(無圧縮) 300MB

ffdshow の MPEG4 1.5MB

と、ファイルサイズが 200 倍も違います。

但し、性能の悪いコーデックを使用すると画像の劣化が激しいのでしっかり選択する必要があります。

【ヘルプファイルを参照する】

Windows Vista 以降の OS で .hlp 形式のヘルプファイルを見るためには、以下のようにする必要があります。

『Windows7 で古いヘルプファイル(.HLP)を表示させる方法』

<http://osusume-freeware.blog.jp/archives/1014905480.html>

【同一 ID 内でのファイル数の制限】

以前のマニュアルにも一応記載してありますが、質問があった項目なので再度記載しておきます。

MCap は、使用する PC に C および D ドライブがあることを想定しています。

画像データのバックアップを

D: ¥ cap ¥ DCIM ¥

に作成します。

¥ DCIM の下のサブディレクトリに、ID 番号に応じた 5 桁のフォルダ名を作成し、そこにキャプチャーした画像ファイルを保存します。画像は .jpg と .avi それぞれに昇順の通し番号をつけます。

すなわち、ID が 1234 であれば

D: ¥ cap ¥ DCIM ¥ 000001234 ¥

のフォルダに

0001.jpg, 0002.jpg, ..., 0001.avi, 0002.avi, ...

のように格納されます。

新たにキャプチャーするファイルのファイル名はこれを見て、次の番号に設定されます。

¥ gazou にも同じ名前のファイルが同時に書き込まれます。

したがって、バックアップが D: ¥ cap に保存されることになります。

同一 ID では同一拡張子の画像ファイルは **9999 個**まで保存可能

これを超える場合には、過去のデータを別の場所に移動する必要があります。

【MCap2 との相違点、使い分け】

2014 年に MCap の後継ソフトとして MCap2 を作成しました（[rs_base 57881]、2014/6/17）。

Windows7 以降、MCap が使用できないと思って作成したのですが、旧 MCap に使用したインストーラーが新しい OS に対応していなかっただけで、実は MCap 自体は Windows7 以降の OS でも使用できました。

機能としては非常に近いものですので、MCap2 を使用中の方で不具合がなければそのままご使用いただければよろしいです。

またバックアップの保存形式は全く一緒なので、一つの PC に両方インストールしても問題ありません。但し同時使用はできないと思います。

相違点を整理しておきます。

1. ビデオ入力機器の制限

MCap2 はアルゴ社製ビデオキャプチャーデバイス限定。プログラムのベースにアルゴ社製の SDK を使用しているため。

MCap ではその他のものでも DirectShow 対応デバイスであれば使用できる可能性あり。ノート PC のカメラやウェブカメラの画像はおそらくキャプチャー可能。

2. 音声の記録ができるのは MCap だけ。アルゴ社の SDK には音声記録の機能がないため。

3. 静止画の連写機能は MCap2 だけ。

【作者連絡先】

tetsu@myjibika.com

森園 徹志（もりその てつし）

うまくいった／ここが駄目だ

ここは何とかならないか

役にたった／使い物にならない

など、よろしければご連絡を。それがモチベーションになるので。

できれば一緒にインストールされる『MCap 試用レポート.txt』に記入して私宛に送っていただきたい。